

373 ワイド

タウン

唐湊新聞

●唐湊新聞(月刊)取材部
Eメール town@373news.com
ファックス 099(813)5174
郵便 7890-8403(住所不明)

アラルト

100年続く鹿大果樹園

唐湊橋から田上台へと抜ける「国道」を上がると、山あいを縫うように広がる果樹園が見えてくる。県内に4カ所ある鹿児島大学農学部付属農場の一つ、唐湊果樹園だ。開設は1916(大正5)年というから1世紀近い歴史を持つ。

8.22の敷地で栽培されているのは、かんきつ類を中心にカキ、ビワ、ウメ、ブルーベリー、マンゴーチなど。川口昭二さん(55)ら3人の技術職員が管理、週2回の学生実習を指導する。「収穫後は学生に食べさせ、作業を育てる喜びを実感してもらおう」(川口さん)という。

97年からは毎月第1、3水曜日に収穫物の販売会を開始。写真。田上台から訪れる常連客の一人、香川友子さん(57)は「新鮮で味が濃く、おいしい」と大賛賞を捧ぐ。地域に届け込んだ農場は、唐湊地区の隠れた「果樹園さん」でもあるようだ。



新川と共に生きる

急な坂道が多い鹿児島市の唐湊地区、下から坂を上げると、空が青くなって家界が広がる。岡巾中心部を流れる新川中流堤下にかかる街の歴史は、川の歴史と歩調の繰り返りだった。

唐湊という地名を初めて「唐湊」から「みどり」と改称しようとしたのは、中国船が寄った。新川は、岡巾右岸計約13kmの唐湊川、1806(天明6)年、新しい唐湊の財政を新田開墾で立て直した。唐湊町が奉行早田平右衛門に命じ、田上川の流れを定めて新川が造られたとされる。彼が平蔵のたもとにたずねた水神は、田川改修を助けてくれたものだ。

恵みと水害もたらす流れ

■ 新しい川は、唐湊から唐湊にかけて流れる新田約400mを流す。新しい川は、唐湊から唐湊にかけて流れる新田約400mを流す。新しい川は、唐湊から唐湊にかけて流れる新田約400mを流す。



改修やダム治水続く

■ 唐湊をもちたす川の流れは、ひとたび大雨や台風で大雨が降ると、荒々しい音を響かす。1906(明治39)年の洪水は、ひとたび大雨や台風で大雨が降ると、荒々しい音を響かす。



■ 唐湊をもちたす川の流れは、ひとたび大雨や台風で大雨が降ると、荒々しい音を響かす。1906(明治39)年の洪水は、ひとたび大雨や台風で大雨が降ると、荒々しい音を響かす。

街のかげ

唐湊幼稚園 園長代理 福留 正人さん(60) 鹿児島市唐湊4丁目



地域へ響く音楽の園

代、全国中学校教育研究 音楽委員のエッセイニ、ほとんどの園児が音楽部会副委員長を務める。アム音楽・外遊研(原 聖吾)特別に個人、園から訪れない園児は、多くの市民の「帰郷」を見守ってきた。

自身、地元生まれ育った。幼いころ、新川でドジョウすくいやウナギ釣りをしたのは、現在も懐かしい思い出だ。現在、園児の母を支え、関係者ら30人の家族を育てている。

唐湊新聞 唐湊タウン 唐湊ナビ 唐湊フォーカス 唐湊カレッジ 唐湊キャンパススウェーブ/まます